演題：「裏付け(ウラ)を取るとは」

堀直樹先生（日本経済新聞神戸支社　支局長）

＜感想＞

自分はマスコミ関係の仕事に就きたいと思っているが、今の自分はマスメディアの活用法を間違えていると思った。ネットに書かれているニュースを簡単に信じて、その情報を自分で正当化してしまっているからだ。もちろん、ネットのニュースに触れることが間違った行動であるとは思わないけれど、新聞やテレビの情報も照らし合わせて、何が正しいのかしっかりと考えてないといけないなと思った。これからの時代は、もっと多くの情報が流れるようになり、正誤を自分で見極める“自己判断力”を身につけていく必要があると思う。また、日々新聞を読んでいく中で、今日、堀さんがおっしゃっていた「見出し」と「第一段落」に特に目を向けていきたい。

私は今回の講演を聞いて、自分は心地よい情報（自分にとって都合のいい情報、興味のある情報）に囲まれているんだということに気づかされました。SNS を見ていると、世界のたくさんのことを知ることができると思っているけれど、その情報はもしかしたら偏っているのかもしれないなと思います。また、情報を得るときに、その情報が正しいのかどうかという裏付けを他の情報を見て、確認するだけでなく、出所がどこなのかをたどっていくのも大切だなと思いました。無意識のうちの思い込みをしてしまわないように気をつけようと思いました。たくさんの情報化があふれる現在は、全ての情報を裁いていくことは不可能ですが、自分から発信する情報だけにでも、誤りがないように裏付けをとることを心掛けたいです。

自分にプラスになる情報だけを見て、視野が狭くなっているという部分にすごく納得しました。全てが全て正しい情報なのではなく、世の中には嘘が出回っていることに改めて恐怖を感じました。新聞に書いてあることであっても、1年後に間違いだとわかることがあることに驚きました。情報は速いことも大切だと思いますが、やはり、真実に近い正しい情報を得ることが一番大事だと思いました。ネットでも、新聞でも、一つひとつの言葉には責任があり、その言葉で誰かの人生が変わってしまう怖さを知ることができました。